外科専門医取得後期修練プログラム
（一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）

【概要】

本プログラムは初期臨床研修プログラムの外科専門医取得プログラムの後期研修にあたります。消化器・肝胆膵・心臓血管・呼吸器・小児・乳腺内分泌のそれぞれの専門領域及びそれらの総合されたオールラウンドの外科医育成を含む３年間の外科修練プログラムです。将来的にどの専門領域に進むにもまずは外科医としての広い見識と技術を身に付け、その後各専門領域に進む事を目指したプログラム内容です。

後期研修においては心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科を希望する者は各科に入局し３年目から５年目は兵庫医科大学病院・レジデントもしくは症例の豊富な関連病院において術者経験を中心として研修を行う。一般・消化器外科を希望するものは兵庫医科大学病院一般・消化器外科（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、炎症性腸疾患外科）のレジデントとしてローテートもしくは症例の豊富な関連病院において術者経験を中心として研修を行う。プログラム４年終了時で予備試験（筆記）を受験し、５年終了までに必須手術経験を終え認定試験（面接）を受けて日本外科学会専門医資格を得る。一般・消化器外科を希望者はこの時点で一般・消化器外科のいずれかの科へ入局となり、各領域の専門医・指導医資格取得、大学院進学、海外留学へと繋がる。

【プログラムコース】

本プログラムは基本的には３年目より自分の将来目指す上記５領域の専門領域での修練を主とし、主要関連病院において手術経験を積みその他の領域のローテート期間を付随させ、３年間（前期研修２年と合わせ卒後５年）で日本外科学会専門医取得を目指します。３年の修練期間内には出張した関連病院での修練も含まれます。基本的には本プログラムは、兵庫医科大学初期臨床研修プログラムで外科専門医取得プログラムを選択した方を対象としますが、本学初期研修の他プログラム、他施設で初期研修を行った方でも受け入れます。その場合３年目・４年目で最低必要手術経験を経験させます。

	４～６月	７～９月	１０～１２月	１～３月
３年目	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院
４年目	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院
５年目	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院	兵庫医大外科系各科又は関連病院

［日本外科学会専門医制度について］（外科専門医）

外科専門医は、一定レベルの手術を適切に実施できる技術とその臨床応用ができる能力を、日本外科学会の指定した外科専門医制度修練施設（以下、指定施設）において修得した外科医に与えられる資格です。将来、消化器外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳

腺内分泌外科等の専門領域の専門医や指導医を目指す外科医も、最初に修得しなければならない資格の入り口となります。

[外科専門医制度修練施設]

本院は、日本外科学会の指定施設であり、修練を受ける関連病院も本院の関連施設として登録されており、専門医取得の経験症例となります。

[外科専門医修得に必要な症例数]

修練期間中に術者又は助手として手術手技を３５０例以上を経験し、また、そのうち１２０例は術者としての経験が必要です。それらの内訳はどの専門領域を主とするかにかかわらず、下記領域の手術を経験する事が必要です。括弧内の数字は、術者又は助手として経験する各領域の手術手技の最低症例数を示します。

①消化管および腹部内臓（５０）、②乳腺（１０）、③呼吸器（１０）、④心臓・大血管（１０）、⑤末梢血管（１０）、⑥頭頸部・体表・内分泌外科（１０）、⑦小児（１０）、⑧各臓器の外傷（多発外傷を含む）（１０）、⑨鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む；上記のうち、各分野における各種手術）（１０）

[修練期間の認定]

外科専門医取得のための外科修練期間とは日本外科学会に入会・修練開始登録を行った日より厳密に算定され、登録以前の症例は認められません。但し、卒後初期研修期間（２年）満了後６ヶ月以内に日本外科学会に修練開始登録した場合に限り、初期研修２年間開始時まで遡って登録したとみなされます。

[外科専門医受験]

外科修練開始後、満４年以上経過した時点（卒後４年）で予備試験である筆記試験を受験する事ができます。さらに満５年（卒後５年）で予備試験に合格し、且つ、上記の手術症例を充足した者は面接試験を受験し、合格すれば外科専門医取得となります。

[外科専門医受験の指導体制]

本外科プログラムでは見識・技術を十分身に付けた素晴らしい外科医育成を目指しますが、同時に卒後５年での専門医取得をも目指します。具体的には筆記試験の対策も行い、また面接試験対策も行います。勿論、十分な症例数を確保するために本院のみならず、手術症例数の豊富な関連施設における修練も組み込みます。また、業績として必要な専門医認定委員会の定める学術集会における研究発表，または学術刊行物における論文発表指導も行います。

[本外科プログラム修練者の待遇・資格]

３年目　：兵庫医科大学病院所属のレジデントとして各科をローテートもしくは関連病院で研修。
４年目　：兵庫医科大学病院所属のレジデントとして各科をローテートもしくは関連病院で研修。
５年目　：兵庫医科大学病院所属のレジデントとして各科をローテートもしくは関連病院で研修。

[卒後３年目の他部署研修について]

総合診療能力のスキルアップのため、麻酔科・疼痛制御科、放射線科のいずれかで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【研修統括者】

外科部門長：宮本　裕治

【修練施設】

兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター・宝塚市立病院・明和病院・関西労災病院・済生会中津病院・西宮市立中央病院・近畿中央病院・市立豊中病院・市立伊丹病院等、阪神間基幹病院多数